

鬼 だ	北上市立	館 より
	の	
第30号		



福豆鬼節分会前夜祭で使用した「木ボラ」


走って探してみんなで"楽しく"厄払い！

毎年恒例となった節分の行事「福豆鬼節分会」が2月1日（日）に開催され、前日の大雪が嘘のように恵まれた天候の中、延べ1,600人を超える来場者で会場は大変賑わいました。岩崎地区自治振興協議会青年部のメンバーが、1月31日の前夜祭で復活させた民間風習で用いた木製の「木ボラ」の音を高らかに響かせての幕開けとなりました。その後屋外ステージでは、各団体による鬼剣舞の公演や子供から大人まで楽しめるゲーム、そして「福は内、鬼も内」の掛け声とともに撒かれた「福豆」や「福餅」によって、来場者は一年の邪気を払い、大いに福を呼び込んだことでしょう。



 鬼婆戦



 打ち出の小槌探し

福豆鬼節分会



▲少ない練習期間ながら、見事に鬼剣舞をマスターしたわんぱく講座の子どもたち。いざ、練習の成果を家族にお披露目です。



▲岩崎女子鬼剣舞による「膳舞」の披露。軽快な身のこなしがとても格好良いです！

▼杵と臼を使っての本格的な餅つき体験も行われました。



▼今年の新ゲーム「鬼図詩合せ」では大きなカルタをみんなで取り合いました！



▲「打ち出の小槌探し」は館庭に無造作にバラ撒かれたくじを探してくるゲームです。当たりかな？ハズレかな？判定待ちではみんなドキドキ☆

▼「鬼婆戦」は今年も白熱しました。ツノをつけ直して再チャレンジ！『パパがんばって!!』



▲風船を割ってお宝をゲットする「爆裂赤面大黒」。ハズレが出たらもう1回！



▲『私は1枚♪』『僕は2枚!!』元気に枚数の中間報告。

H20年度 特別展レポート

特別展 収蔵資料展

「土産と産土鬼」 ～今昔の鬼土産～

5月10日(日)まで 開催中

「産土神^{うぶすなのみかみ}」とは、一般に先祖または地域社会を守る神やそれを祀る神社をいい、生まれた土地の守り神とされています。また、その土地の名産を求めて贈る、いわゆる「土産^{みやげ}」は、江戸時代、伊勢詣や善光寺詣などの社寺参詣の旅において得た神仏のご利益や恩恵を「土産」として持ち帰る風習が習慣化したことが始まりのようです。

今回の展示では、その土地の神として根付き、崇められている鬼をテーマにさらにそれが土産として販売されているものを取りあげ、公開しています。



"世俗化した和尚を風刺した民衆画"

「鬼の念仏」東海道五十三次大津宿 (現在の滋賀県大津市)

特別展 「鬼の水・良薬と毒薬」

10月5日(日)～12月7日(日)

鬼を素材とした銘柄を持つ「鬼酒」に着目し、鬼と酒に関する資料約140点を紹介しました。

酒は農耕儀礼や神事儀礼の"ささ(御神酒)"として普及発展を遂げると、近世以降に一般化されます。現在でも慣例を伝承し、仏前や神前、年中行事、民間信仰等の場に神への供物として捧げられています。

一方、鬼は古くから怖いもの、恐ろしいものとされ、畏怖の精神観のもとで扱われますが、次第に"邪気を祓う存在"とした畏敬の精神も有し、強く偉大なもの、神仏のしもべや家臣として民間行事や宗教儀礼等で祀られる側面を持ち合わせるようになります。

このような鬼の性格と酒が有する特異的な儀礼酒が"神"と結びつき、更に酔狂性と薬酒観が融合し現在の「鬼酒」が生まれます。身近な酒を通じ、恐ろしさだけではない鬼が持つ両義性を見出す絶好の機会となったのではないのでしょうか。



「シーサー」

特別展 「匠の伝承展

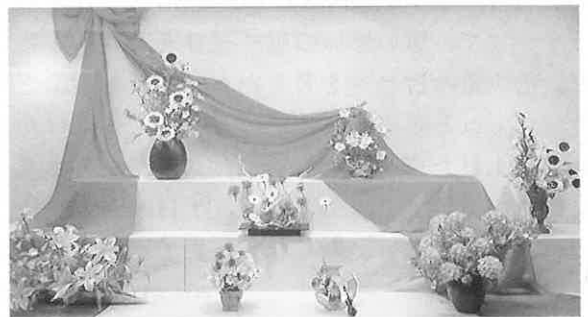
佐々木博子アメリカンフラワーの四季」

12月21日(日)～2月22日(日)

北上市内には生活に密着して時の経過とともに創意工夫され、現在に受け継がれてきている様々な工芸品や創作作品を作り出す匠がいます。

今回は、アクリル樹脂を使ったアメリカンフラワー作品制作に取り組むほか、教室も開設している佐々木博子さんとその生徒の作品・約40点を展示公開しました。

季節ごとに分けられた色鮮やかな花々は、まるで本物と見間違ふほどの精巧な出来栄で、訪れた来場者の目を惹きつけて離しませんでした。



「夏」

前夜祭 百鬼水夜行宴

今年、福豆鬼節分会の前夜祭として初の試みとなる「厄除け百鬼水夜行宴」が1月31日(土)に鬼の館エントランスホールで行われました。

この百鬼水夜行宴は、昨年10月5日(日)～12月7日(日)に開催された「鬼の水・良薬と毒薬」において、全国各地から収集された鬼に関係する銘柄の酒・約140点を用いて厄払いを行うイベントです。

参加者は20歳以上の北上市民を対象に先着100名を募り、当日は生憎の悪天候に見舞われながらも、総勢120名を超える参加者を集めての大イベントとなりました。当館学芸員による鬼と酒にまつわる基調講演を始め、岩崎鬼剣舞の厄払い公演、イベント後半にはかつて民間風習に用いられた木製の「木ボラ」を復活させての門掛け出陣式や館庭において夢灯りの点燈式なども行われ、会場を大いに盛り上げました。

参加者からは来年も是非開催してほしいとの要望が多く寄せられ、厄払いイベントとしての定着もそう遠くはないかもしれません。



▲基調講演



▶厄払い鬼剣舞儀礼

★ 冬休みワークショップ ★

今年親子で「鬼絵版画」カレンダー作りと「鬼剣舞面作り」に挑戦。



“もし鬼と友だちになったら何をしてあそびたい?”というテーマで、思い思いの鬼や遊びを表現しました。色の組み合わせを考えたり、和紙を選んだり、ちょっと頭を悩ませたけどいっしょけんめい仕上げた作品はどれも名画。みんなのお家に飾られていることでしょう。1日ばかりで仕上げる鬼剣舞面も、みんな最後まで丁寧に作り上げました。

鬼剣舞面の色のお話を聞いて、モノ知りになった後は、やっぱり白面が人気かな?

鬼っこわんぱく講座 “鬼剣舞体験”

鬼の館恒例事業のひとつ。講座開催のご案内をする前に、「今年は実施しますか?」「おともだちのお母さんから聞いたのですが…」と、問い合わせがくるほどの盛況ぶりです。

今年4歳から小学5年生までの26人が集まり、はりこ体験、鬼剣舞体験を通して、鬼の心や人々が芸能に込める想いを学びました。

講座最終回は福豆鬼節分会でのステージ発表。ご指導いただいた岩崎鬼剣舞保存会の方々や応援に駆けつけた家族へ感謝の気持ちを込めて見事な舞を披露してくれました。修了式で代表あいさつしてくれた高橋諒くんのお礼の言葉を紹介します。



「お礼の言葉」

北上市立黒沢尻東小学校
1年 高橋 諒
ずっと好きだった鬼剣舞を、先生と踊ったり、お面を作ったりして、とてもうれしくて、頑張っ
て踊ることができました。鬼剣舞の踊りを教えて来てくれて、ありがとうございます。ぼくたちの発表を見に来てくれて、ありがとうございます。

退任によせて

“退館に当たって感謝と更なる飛躍を”

館長 高橋 勝



このたび3月31日をもって退任することとなりました。
前副館長の後任として着任して、わずか2年間と短い期間ではありましたが地域を始め、各種団体、関係機関の方々に支えられながら努めることができましたことに感謝申し上げます。

この間、さまざまな思い出がありました。一度に二人の偉大な館長を失うこととなり途方に明け暮れる日々が続いた悲しい思い出、ふるさと創生事業を取り入れ平成6年6月1日に鬼のテーマ博物館としてスタートして以来、13年目で入館者50万人を達成した思い出、特別展で収集した「鬼酒」で福豆鬼節分会前夜祭を初めて実施した思い出等々たくさん思い出がありました。

地元でいながら鬼について知識もない私でしたが、39年6ヵ月の在職で最後の勤務地が地元で、しかも北上市民憲章に「あの高嶺鬼住む誇り」とあるように鬼について少しではありますが学べたことは私にとって一生の宝であり誇りでもあります。

生前、酒癖に親父からよく言われた言葉に「仕事覚えるよりまず人を覚えろ」とか「人間は10の内長所も短所も必ずある、9つの短所見るより1つの長所見る」、この親父の言葉が今退職するに際し、胸にジンと来るものがございます。

退任するに当たり、これからも市民が気軽に立ち寄れる施設として広く開放し地域と密着した運営と、夏油高原温泉郷等、四季折々自然にも恵まれた観光拠点であることから観光と一体的な施設として更なる飛躍を願っております。

今後とも、私と同様後任の館長にもご協力を賜りますようお願い申し上げます退任のご挨拶とさせていただきます。

本当にありがとうございました。

平成21年度の行事予定

❖ 特別展

- ・「江戸の絵師 歌川派」
5月24日（日）～8月16日（日）
- ・開放事業
「博物館実習生 企画展示」
8月下旬～9月
- ・「故門屋館長追悼展」
10月～12月中旬
- ・よろず伝承展
12月下旬～2月
- ・収蔵資料展
3月～4月

❖ 鬼学講座 9月～3月 全5回

❖ 鬼っこわんぱく講座 5月～2月

❖ 鬼の館芸能公演 午後1時30分から

- 鬼の館野外ステージにて開催 鑑賞無料
- 4月26日（日） 北藤根鬼剣舞
 - 5月4日（月） 岩崎鬼剣舞(特別善意公演)
 - 5月5日（火） 三館鬼剣舞
 - 5月24日（日） 口内鬼剣舞
 - 6月28日（日） 滑田鬼剣舞
 - 7月26日（日） 二子鬼剣舞
 - 8月23日（日） 相去鬼剣舞
 - 9月27日（日） 鬼柳鬼剣舞
 - 10月25日（日） 御免町鬼剣舞

❖ 大乘神楽大会 6月中旬 鑑賞無料

❖ 福豆鬼節分会 平成22年1月31日（日）

ちよっとモノ知り

闇の追放儀礼 一考察

人が"食"という永久の命題を満たすために個々の活動からより効果的な共同体での活動へ。それは狩猟や漁労そして採集の領域の拡大を可能にすることによって、より安定した"食"の確保を実現してきた。

しかし、複数の人々の集合体である共同体組織での安定供給はこれまでの狩猟や漁労による採集等の方法では限界があり、生産採取形態への移行が考え出され、これまでの移動を主とした生活形態から一定地域での定住化へと変化する。そこには必然的に共同生活を営む際の約束事が生まれ、一定の共同組織という拘束社会が誕生する。

その後、共同社会は安定した形で供給するため農耕という生産手段を発展させていくこととなり、共同体も徐々に拡大し、現在の社会共同体となる基盤を形成することとなる。

この農耕による生産は、長い年月をかけ飛躍的な技術の改良と開発をとげながら発達し、小規模な農耕経営から大規模な農耕経営と姿を変え現在に至っているが、この背景には開発や技術革新ばかりではなく、農耕に対する民衆のメンタル的な精神観があり、各種精神信仰が確立され、ハード的な側面と並行して民間儀礼や共同体儀礼として四季や節目の儀礼で執り行われ、これが農耕社会にとって大きな比重を占め、特色ある精神信仰を多分に融合させた農耕文化を築きあげてきている。一般的に語られる精神文化の大部分は、農耕に起因し派生した儀礼儀式がほとんどであり、国内の精神文化の根源と位置付けても過言ではないものと言えよう。

農耕は収穫期における豊饒を基本としているため、年の気象条件に大きく左右され、また収穫物という恵みは太陽と水という媒体を得て初めて生育するものであることから、これらに対するメンタル的な精神観が派生し、山の神信仰や祖霊信仰に結びつき崇められるようになる。しかし、これらの民間信仰の確立は、中世以降に至ってからのものであり、それ以前の信仰は、作物の生育に最も影響を及ぼす原始信仰としての"太陽"であった。

太陽を絶対神として崇めることで豊饒を祈念する予祝儀礼や収穫儀礼さらには生育過程の節目の節供儀礼が盛んに執り行われ、地域農耕の風習や各家々での慣習として定例化し、太陽神も昇華した姿で受け継がれ、地域によって有形無形を問わず様々な形で祀られて儀礼が繰り

広げられている。

一般にこれらの信仰には、陰陽思想の根本となる古代中国思想が多分に引用されており太陽の誕生から死滅までを四季の流れに結びつけて一年の周期とし、さらに農耕に伴う農作業過程をその周期にあてはめることによって、それぞれの節目の農耕儀礼として位置付け、太陽復活の儀式として作物の成長と豊饒を予祝するという行為こそ、正に民間信仰における精神儀礼そのものなのである。

一日の尺度で太陽の動きをみると復活して再生し朝を迎え活動し、やがて力衰え、力尽きて沈み夜を迎えるサイクルとなる。この周期を年の周期に置き換えてみると、復活再生することによって春季を迎え、活動する夏季を経て衰退する秋季となりやがて力尽きて沈む冬季となる。これらを農耕にあてはめると春季は作物の芽生えにあたり、夏季は繁茂期・生育期、秋季は収穫期を指し、冬季は死滅する農閑期となる。これらの節目々にいろいろな誘惑や取崩ともとれるような予祝と復活を太陽神に対して積極的にとることによって豊饒を達成しようとする精神儀礼でもある。「魏志倭人伝」には"其の俗正歳四節を知らず、ただ春耕秋収を記して年紀となす"と記されるように古来は収穫物の開始と収穫の時期で一年のサイクルと考えていた感があるが、そこに宿る祈りの精神像に変化はない。年を二期とする春秋の田の神祭りは、春の農耕開始とともに山の神が里に降りて田の神となり、秋の収穫が済むと再び山の神となって山に帰るとされる。いわゆる神を迎える儀礼から霜月の新嘗祭のように収穫に感謝し山に送る儀礼であり、そこには祖霊信仰や山の神信仰が原始信仰である太陽信仰に融合し、昇華した姿で行われていることが推察されよう。

しかし、ここでの儀礼は、いずれも春耕から秋の収穫そして新嘗祭までの儀礼であり、昇華された姿の太陽神が活動している時季でもある。その後、太陽は沈み一切の物々が死滅する闇の世界が訪れることとなる。

農耕を生業とする民族にとって冬という死滅の世界は決して"ハレ"や安堵休眠の時季ではなく、むしろ来季の春耕を迎えるうえにおいて恐れ多い時季となり、この時季の追放儀礼が"太陽の復活祭"という様々な"予祝儀礼"でもあり、闇の追放儀礼として執り行われているのである。

scene16

鬼学ノート

今回は当館学芸員によるお話。

解説を聞きながら館内を巡った方々からはいつも拍手喝采をいただく名物学芸員です。



鬼の館 上席主任学芸員 鈴木明美 (すずき あきよし)

これらの儀礼は、人の"ケガレ"を祓う精神文化と同列に位置づけられ、並列化された形で繰り返される。新嘗祭後に行われる霜月まつりは、地域によっても異なるが晩秋から冬季間に行われる神楽の神事儀礼であり、11月から3月にかけて行われる愛知県東栄町や周辺地区の"花祭り"儀礼は有名で、魔を祓うとされる足踏み所作、反問や湯立てを鬼神が舞という形の中に取り入れて行う一連の儀礼である。また、現在歳の暮れに行われている秋田県男鹿地方に伝承される"ナマハゲ"習俗もまた同様であり、農耕儀礼に関わる習俗とみられる。元来1月15日の小正月の日に行われていた習俗として知られ、折口信夫によって"小正月の来訪神"と名付けられたように、闇を追放するために信仰対象となる山から里に降りて来て各家々に福をもたらす得体の知れない"まればと"的な存在とされる。現在では子どもの成長としつけ的な要素が強調され、物怪的な感じで行われているようだが、この習俗にはその年の耕作に関わる天候状況や作付けの時期等について、家々の戸主との問答の場がある。これら一連の行動からすると農閑期にあたる冬季間にすべき農耕の準備の必要性と仕事に対する勤労を論し、怠け心という闇を戒めることによって、豊穰を確約するという一種の予祝儀礼の姿が隠されていることに気づく。

個々の身近な儀礼としては正月の松飾りや鏡餅・七草粥の風習のほか家の中に飾られる花餅飾りやミズキ団子の風習がある。松飾りは、常緑の松や竹に果物や花を飾り付け、家の玄関に祀ることによって春の到来を強調し表現する儀礼であり、鏡餅を神棚や床の間に祀る風習も太陽神の昇華した姿を祀ることによって復活を祈る儀礼である。

また、七草粥は元来"七種の粥"といって七種類の穀物(米・粟・ヒエ・キビ・小豆・胡麻・箆子)で作った粥を神に供物として奉げ供食する風習と春の七草(セ

リ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ)、いわゆるこれら若菜は初春の若返りの植物であるとされ、この七草を食べることによって疫病防止や禊ぎの効果があるとされる風習でこの両者が結びついたものである。いわゆるこの行事は冬という闇の世界において、心身を内から清め太陽の恵みである七種類の穀物を神に奉げ、共に食べることによって若返りをはたし、復活することで春の到来を確約する一種の予祝儀礼なのである。

この他、屋外における儀礼として、冬の時期に庭を田圃と見立てて行われる庭田植や田遊びの行事のほか、神への祈願を主とした"寒中禊ぎ""裸参り""蘇民祭"があり、田植神事では"ぞんべら祭"(石川県鬼屋神社2/6)"田の神祭り(岐阜県森八幡神社2/14)" "デンデンガッサリヤ"(愛知県山中八幡宮1/3)等をはじめとして各地区で種々の儀礼が数多く行われている。特異な神事儀礼としては凶作をひき起こす闇を追放する目的や豊凶占いを主眼とする"やぶさめ神事"(埼玉県萩日吉神社1/15)"弓祈願"(愛媛県川之江 旧正月)"御弓神事"(宮城県野篁峯寺1/3~)等も一連の予祝儀礼としてとらえることができる。

農耕を営む民族にとって死滅を意味する冬季の追放儀礼は、太陽神の復活と耕作にかかせない春の到来を確約させ予祝する意味で、生活に直接結び付く最も重要な儀礼であることが理解できよう。冬の到来とともに各地区の家々や各神社で繰り返される闇の追放儀礼こそ現在の文化を築き上げてきた農耕文化の礎であり、そこに住み農耕に携わる民族の切なる精神文化そのものなのである。このような視点に立ち各種の冬まつりに参加し、また鑑賞することでお祭りそのものの見方や楽しみ方も変わるものと考えられる。

鬼の里だより

●企画展・特別展

- 〈特別展〉「鬼の水・良薬と毒薬」
10月5日(日)～12月7日(日) 3,485人
- 〈特別展〉匠の伝承展
「佐々木博子アメリカンフラワーの四季」
12月21日(日)～2月22日(日) 3,502人
- 〈特別展〉平成20年度収蔵資料展
「土産と産土鬼」
～5月10日(日) 開催中

●鬼の館芸能公演

- 10月12日 三館鬼剣舞 観客 145人
10月26日 谷地鬼剣舞 観客 147人

●福豆鬼節分会前夜祭

- 「厄除け百鬼水夜行宴」
1月31日(土) 入場者 124人

●福豆鬼節分会

- 2月1日(日) 入場者 1,674人

●鬼学講座

- 第5回 10月18日「口承文芸の意義」
盛岡大学文学部教授 大石泰夫氏
受講者 13人

●鬼っこわんぱく講座

- 「鬼剣舞体験」
1月10日(土)・17日(土)・24日(土)・25日(日)
・31日(土)・2月1日(日)
全6回講座 参加者 26人

●鬼ッズ・プレイミュージアム 10月1日～3月31日

- 和紙面づくり 参加者 64人
出前講座 1件 参加者 24人
出張講座(水沢商業高校) 参加者 17人
〈冬休みワークショップ〉
鬼絵版画カレンダーづくり 参加者 47人
鬼剣舞面づくり 参加者 35人

利用案内

開館時間 午前9時から午後5時まで。
なお、入館は午後4時30分まで。

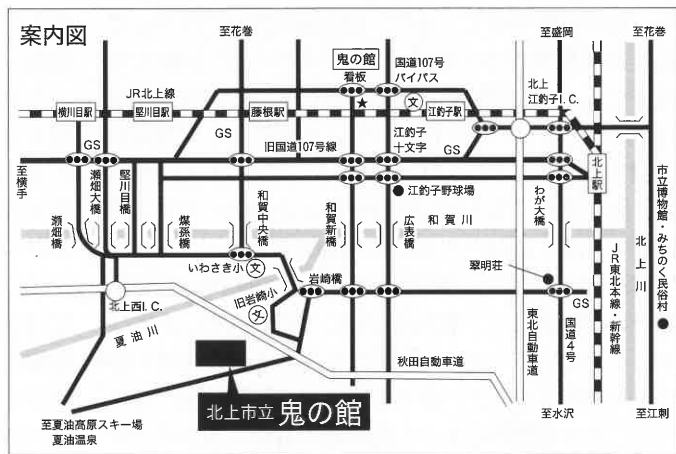
- 休館日**
- ・12月～3月の月曜日
 - ・12月～3月の国民の祝日の翌日(土・日・月曜日の場合は火曜日)
 - ・館内整理日(11月27日～11月30日)
 - ・年末年始(12月28日～1月4日)
 - ・臨時休館日(5月26日、9月15日)

入館料

一般	350円(300円)
高校生	240円(180円)
小中学生	170円(120円)

()内は20人以上の団体料金。
下記の場合、市内小中学生は入館料が免除になります。

- ・毎週土・日曜日
 - ・学習活動で申請利用する時
- 交通案内**
- ・JR北上駅西口よりバスで25分。
煤孫経由横川目行、瀬美温泉行「岩崎橋」下車徒歩10分。
 - ・JR北上駅より車で20分。
 - ・東北自動車道「北上江釣子I.C.」、秋田自動車道「北上西I.C.」よりともに車で15分。



北上市立鬼の館だより

第30号 2009.3.31

編集・発行 北上市立鬼の館

〒024-0321 北上市和賀町岩崎16地割131番地
TEL 0197(73)8488 FAX 0197(73)8508